

索引

欧文

A ~ C

Academia.edu	10, 54 ~ 56
<i>American Journal of Gastroenterology</i> 誌	69
Apple AirDrop	214
AP 通信	238
Asana	211, 213, 214
ASAP	155
association, associated	
正しい使い方	124
BibTeX	68
<i>British Journal of General Practice</i> 誌	98
<i>British Medical Journal</i> 誌 (BMJ)	66, 122, 273
BuzzFeed.com	277
<i>Carbon</i> 誌	119
<i>Cardiovascular Endocrinology</i> 誌	17, 22, 28, 31
causation, causal	
正しい使い方	124
<i>Cell</i> 誌	26, 66
Chicago (author-date) スタイル	68
<i>Chicago Tribune</i> 誌	243
CONSORT ガイドライン	56
correlation, correlated	
正しい使い方	124

D ~ G

Dropbox	211, 214
Duns & Bradstreet Data Universal Number (DUNS)	155

Dweck, Carol S.	187 ~ 188, 201
eCommons	155
<i>Economist</i> 誌	191, 277
Electronic HandBook (EHB)	155
EndNote	68
Fastlane システム	
登録手続き	155
FedConnect	155
Gerald Lanson	243
一般読者 (「大衆とのコミュニケーション」参照)	
Google Scholar	54, 68, 70 ~ 71
Google スプレッドシート	211
Google ドキュメント	158, 211, 213, 214
<i>Guardian</i> 誌	277

H ~ J

<i>Harvard Business Review</i> 誌	214
head-body-foot 構造	
パラグラフにおける	38
文章やセクションにおける	39 ~ 41
<i>Huffington Post</i>	247, 277
iCloud	214
IMRaD (Introduction, Methods, Results, and Discussion)	10
「イントロダクション」「結果のセクション」「考察のセクション」「方法のセクション」についても参照	
<i>International Journal of Sports Medicine</i> 誌	261
<i>Journal of the American Medical Association</i> 誌 (JAMA)	66, 273

L ~ N

<i>Lancet Neurology</i> 誌	79
<i>Lancet</i> 誌	54, 66, 273
<i>Medical Journal of Australia</i> 誌	54
Microsoft OneDrive	214

Microsoft Word	
相互参照機能	181
変更履歴機能	213
Mitchell Stephens	243
Nature 誌	
26, 53, 66, 88, 90, 135, 138, 199, 262~267	
New Yorker 誌	277
New York Times 誌	191, 238, 243, 277
Nisus Writer	
相互参照機能	181
変更履歴機能	213

P・R

PLoS One 誌	66, 269
Portfolio Analysis & Management System (PAMS)	155
PRISMA ガイドライン	56
Proceedings of the National Academy of Sciences 誌	33
PubMed	10, 68, 250, 269
アルゴリズム	70
Reddit	277
RefMan	68
RefWorks	68
ResearchGate	10, 55
research.gov	155

S・T・W

Science 誌	66, 88, 199
Skype	215, 217, 218
Small Business Administration (SBA.gov)	155
Small Business Innovation Research (SBIR)	
グラント (NSF)	149
Small Business Technology Transfer (STTR)	
グラント (NSF)	149
Social Science & Medicine 誌	98
STARD ガイドライン	56
STREGA ガイドライン	56

STROBE ガイドライン	56
System for Award Management (SAM)	155
The New England Journal of Medicine 誌	66, 273, 275, 276
The Reader's Brain	16, 141
Tumblr	277
Washington Post 誌	238

和 文

あ

アイヴァー・リチャーズ	35, 36
アブストラクト	
書き方	134~137
構造化か非構造化か	136~137
アリストテレス	15
アンケート	
チームメンバーの強みと弱み	208~210
医学研究会議 (英国)	151
一貫性	
ブライミング効果, 初頭効果, および新近効果	35~37
文脈についての手がかりと枠組み	35~37
一貫性に関する原則	
パラグラフにおける head-body-foot 構造	38
文章のデッドゾーンを利用する	41~42
文章や文章のセクションにおける head-body-foot 構造	39~41
冒頭部分	37
インゲルフィンガー・ルール	10
イントロダクション	40, 75~100
仮説	81~85
仮説を置く位置と長さ	80
既存の文献が触れていないことやその限界をはっきりと書く	77
避けるべきミス	75
質的研究	96~99
修辞戦略	77~81
修辞的構造	81

イントロダクション (つづき)

主題文	81~85
総説	99
トピックの重要性を揺るぎないものにする	77
長さ	77
パラグラフの構成	81~88
冒頭戦略	88~90
冒頭のパラグラフ	78~81
「冒頭部のビッグバン」を避ける	76~77
例	90~96
インフォームド・コンセント	
同意書に関する参加者の理解	224~226
引用文献のスタイル	68
ウェルカム・トラスト	152
後向き分析	73
英語における主語-動詞-目的語 (SVO) の順番	22
エラスムス	15
王立協会 (英国)	152
オープンソース	270

か

外部資金	146~147
学際的解析	73
仮説	40
イントロダクションにおける位置と長さ	80
主題文との比較	81~85
仮説論文	73
画像	
出版の確率を高めてくれる	138
カバーレター	
投稿時における重要性	133
ガントチャート	202, 210
記憶	
読解における役割	29~30
キャリアのために	
グラント申請書や論文原稿へのコメントに返答する	191~194
なぜメンターが必要か	59~63

ライティングは集中力を要する作業	44~45
レジリエンスと再投稿	140~142
論文に名前を載せる	220~222
共同研究者	
選ぶ基準	156
共同執筆	
医学・生物学分野のライティングに関する文献の欠如	195~196
医学・生物学分野のライティングの特徴	195~196
嘘の締め切り	206~207
ガントチャート	210
計画に関する間違った考え方	207
ゲーム	197
原稿をまとめるために必要なスキル	195
執筆リレー	195~198
締め切りと生産性	214
進捗を把握する方法	210~215
水平分割法 (horizontal-division writing)	196
層別分割法 (stratified-division writing)	197
対面のミーティング	216
チームメンバー間の効率的なコミュニケーション	215~219
チームメンバーのタイプ	200~204
チームメンバーの強みや弱みに関するアンケート	208~210
チームメンバーの強みを明らかにする	198~200
チームリーダーの役割	207
逐次型の執筆法 (sequential writing)	196
パーキンソンの法則	206~207
反応型の執筆法 (reactive writing)	197
並行型の執筆法 (parallel writing)	196
他のメンバーが締め切りに間に合うように手伝う	211
ホフスタッターの法則	206~207
メールの使用	217~219
メッセージやチャットアプリの使用	216
模範的な方法	196~198
喜ばしくないことを伝える	218
利用すべきソフトウェア	210~215
論文に名前を載せる	220~222
共同執筆における執筆リレー	195~198
共同執筆の比喩としてのゲーム	197

虚辞				ブライミング効果, 初頭効果, 新近効果の利用	170~173
使用を避ける	26~27			プログラムオフィサーに早めにコンタクトを取る	183~184
グラウンデッド・セオリー	73			文章を圧縮する練習	164
グラント				メンターの利益	158~159
タイプ	145~152			ライターズブロックと向き合う	185
グラント申請	143~194			「理由」で始める	161~162
Fastlane システムを使うための登録	155			臨床診療, 公衆衛生政策, あるいは商品化における 意義を明確にする	173~176
FOA, RFP, PA を読む	145			レトリックや議論を進めるための戦略	160~164
ある目的に従属的な目的を設定しない	166			グラント (著者) のラボ	138, 162, 164, 166, 167, 168, 176
オンライン提出のための登録	155			計画に関する間違った考え方	207
オンライン提出のための登録に必要な時間	155			ケーススタディ	
オンライン提出の手続き	155			分野の常識をひっくり返す	54~55
各セクションの構造と内容	159~170			結果のセクション	113~120
獲得したグラントの更新	164~166			p 値ありきの文章を書かない	117~119
期待される成果のタイプの影響	154			書き方	113~117
具体的な目的のセクション	166			小見出しの活用	113
グラント獲得に至った時点でのキャリアの進行度	143~144			避けるべきミス	117~119
グラント獲得のハシゴを登る戦略	156~158			システマティック・レビュー	117
グラントの獲得状況	143~144			図表の活用	115~117
グラントの更新や資金獲得の確率を上げる	188			メタアナリシス	117
グラントの申請サイクル	153			研究成果	
グラントのタイプ	145~152			期待される結果によって研究を分類する	50~57
コメントに返答する	191~194			議論を巻き起こしそうな知見を扱う (ケース スタディ)	54~55
最終ドラフトの明快さ	170			診断や介入治療に関する知識の蓄積	51
再提出する際の戦略	186~188			診断や治療に劇的な変化をもたらす可能性のある 偶発的発見	52
査読者になる可能性のある人を知っておく	178			成果のカテゴリーを利用して出版の確率を高める	57~58
査読者の評価方法	170, 177~178			初めての発見タイプの研究	52
資金獲得に至った研究例	145			パラダイムシフト	53~57
資金提供機関	145~152			研究デザイン	
資金提供の基準を綿密に調べる	145			交絡因子となりうる要因を排除する	48~50
執筆ソフトウェアの相互参照機能の使用	181			ジャーナルに投稿する上で守るべきガイドライン	56
執筆のアプローチ	179~181			投稿論文を念頭に置きながら研究デザインの 枠組みを決める	72~74
初回申請で資金を獲得できる確率	186~188			文献や既存の知識についての事前調査	69~71
試練や逆境に対する態度	186~188				
図表の使用	168				
専門領域と過去のグラント獲得歴を元に共同 研究者を選ぶ	156				
提案のガイドラインに忠実に従う	152				
広く, だが狙いを定めて資金提供プログラムを 見つけよう	144				

研究の種類

論文のタイプに適した内容.....73

研究の分類

期待される結果によって研究を分類する.....50~57

語彙

一貫した語句選び.....34

同義語を使わない.....34~35

語彙認識の段階

.....20~27

考察のセクション

.....41, 120~133

得られた知見についてごまかすような書き方を
してはいけない.....131~133

書くべき内容.....120~122

研究の弱みや制約の扱い方.....130

考察のセクションにおけるパラグラフの組み立て方
.....125~133

考察をよりわかりやすくするには.....122~124

語句の使い分け.....124

執筆する上での障害.....120~122

修辭的構造.....120~122

第1パラグラフ.....126

第2パラグラフ.....126~128

レトリックと議論の進め方.....128~130

硬直マインドセット

.....187~188, 201

構文

.....20

交絡因子

研究デザインから排除する.....48~50

語句の使い分け

association, associated.....124

causation, causal.....124

correlation, correlated.....124

語句の連鎖

文のつながり.....31~32

国防総省（米国）

医学・生物学分野の研究に対する資金提供
.....149~150

国民保健サービス（NHS）国立衛生研究所（英国）

.....151

国立衛生研究所（NIH）（米国）

.....54

資金提供プログラム.....147~149

国立科学財団（米国）

.....149

好ましい単語.....105

コホート研究.....73

コントロール・フリーク.....201

さ

サッカーボール.....20

査読者

選ぶ.....137

グラント申請の評価方法.....170, 177~178

査読者になる可能性のある人を知っておく.....178

反論される可能性を考慮する.....47~50

反論にあらかじめ備える.....101~104

メンターを査読者として推薦する.....62~63

サンプル数.....112~113

資金提供機関.....145~152

システマティック・レビュー.....73

結果のセクション.....117

自然経過・自然歴.....73

質的研究

イントロダクション.....96~99

研究のタイプ.....73

しなやかマインドセット.....187~188

支配的な委任者.....203~204

締め切り

生産性に対する影響.....214

チームメンバーに嘘をつく.....206~207

他のメンバーが締め切りに間に合うように手伝う
.....211

ジャーナル

引用文献のスタイル.....68

お金を払えば掲載してくれるジャーナルを避ける
.....268~270

高インパクトファクターのジャーナル.....67

投稿ガイドライン.....56

投稿形式.....65~67

投稿論文が門番を通過するようにする.....133

目的と対象分野.....65~67

ジャーナルに投稿する上で守るべきガイドライン

.....56

集中力（ライティングに必要な）	44～45
主題文	
仮説との比較	81～85
出版（「論文の投稿」参照）	
症例集積研究	73
症例報告	73
初頭効果	30, 35～37, 41
グラント申請で利用する	170～173
語句の連鎖	31～32
新近効果	30, 35～37, 41, 81
グラント申請で利用する	170～173
語句の連鎖	31～32
診断や介入治療に関する知識の蓄積	51
診断や治療に劇的な変化をもたらす可能性のある 偶然の発見	52
水平分割法	196
図（出版を助ける）	138
グラント申請に入れる	168
結果のセクションに利用する	115～117
スティープン・ピンカー	15
スピアマンの相関係数	124
生物医学先端研究開発局（BARDA）（米国）	150, 197
専門家の意見・見解に関する論文	73
総説	73
イントロダクション	99
書き方	73
共著者になるよう誘われる	60
層別分割法（stratified-division writing）	197
ソフトウェアの相互参照機能	181

た

大衆とのコミュニケーション	223
お金を払えば掲載してくれるジャーナル	268～270
ガイドラインや推奨事項を伝える	226～238
記者のように書く	249～259
研究成果をたくさんの人に届ける	238～242
同意書の読みやすさ	224～226

なぜニュースになるのか	242～246
パラドックスの力	260～267
プレスリリースの構成と内容	270～278
良いプレスリリースの効果	246～249

代名詞

文法的主語に単独で使うことは避ける	25
-------------------	----

ダグラスの法則	205
---------	-----

タダ乗り	203
------	-----

単語

文章を読むときの個々の単語の認識	20～21
------------------	-------

チームメンバー

強みや弱みに関するアンケート	208～210
----------------	---------

チームメンバーのタイプ	200～204
-------------	---------

コントロールフリーク	201
------------	-----

支配的な委任者	203～204
---------	---------

タダ乗り	203
------	-----

知的な賛同者	201
--------	-----

馬車馬	202
-----	-----

チームリーダーの役割	207
------------	-----

チームワーク

計画に関する間違った考え方	207
---------------	-----

逐次型の執筆法（sequential writing）	196
-----------------------------	-----

知的な賛同者	201
--------	-----

転換語

文同士を結びつける	32～34
-----------	-------

統計的有意性	124
--------	-----

動詞

動作動詞を使う	26
---------	----

非動作動詞	26
-------	----

トピックセンテンス	37
-----------	----

トロール	191
------	-----

な

内部資金	145
------	-----

ネガティブ・スタディ	73
------------	----

投稿	69
----	----

ネットワーク

キャリア開発における重要性	61～62
---------------	-------

ネットワーク (つづき)	
メンターが提供してくれる機会	61~62

は

パーキンソンの法則	206~207
初めての発見タイプの研究	52
馬車馬	202
パラグラフ	
head-body-foot 構造	38
トピックセンテンス	37
パラグラフの冒頭部分を意識する	37
パラダイムシフト	53~57
ウォレンとマーシャルによる <i>H. pylori</i> の研究	54~55
パラドックス	
力を利用する	260~267
冒頭戦略	88~96
バリー・マーシャル	54~55
反応型の執筆法 (reactive writing)	197
ピアソンの相関係数	124
筆頭著者になることの利点	220~222
表	
結果のセクションでの使い方	115~117
袋小路文	20~21
ブライミング効果	35~37, 81, 113, 160, 277
グラント申請で利用する	170~173
プレスリリース	88
記者のように書く	249~259
構成と内容	270~278
パラドックスの力を利用する	260~267
良いプレスリリースの効果	246~249
文	
虚辞の使用を避ける	26~27
重要な情報は文の強調位置に置く	29~30
受動構造	22
受動構造ではなく能動構造を使う	22~23
動作動詞を使う	26
動作主または具体的なものを文法的主語にする	24
能動構造	22

文同士を結びつけるために転換語を使う	32~34
文のつながり	27~29
文のつながりのために語句の連鎖を利用する	31~32
文法的主語に代名詞を単独で使うことは避ける	25
文を読みやすいものにするために	21
方法のセクションにおける文の構造	23~24
文献管理ソフト	68
文献検索	
Google Scholar	70~71
文章	
デッドゾーンを利用する	41~42
文章全体やセクションにおける head-body-foot 構造	38~41
文章のデッドゾーン	
利用する	41~42
文の受動構造	22
なるべく能動構造を使う	22~23
方法のセクションにおける文の構造	23~24
文のつながり	
読解	27~29
文のつながりに関する原則	
強調位置を利用する	29~30
語句の連鎖	31~32
文同士を結びつけるために転換語を使う	32~34
文の能動構造	22
受動構造はなるべく使わない	22~23
方法のセクションにおける文の構造	23~24
文脈についての手がかり	35~37
並行型の執筆法 (parallel writing)	196
米国現代語学文学協会 (MLA) の引用スタイル	68
米国心理学会 (APA) の引用スタイル	68
米国保健福祉省 (米国)	
BARDA の資金提供	150
冒頭戦略	88~90
例	90~96
冒頭部分	37

方法のセクション	101~113
Who, What, When, Where, Howを使う	106~109
書き方	101~104
書くべき内容	104
基本的な選択および除外基準	104
好ましい単語	105
小見出しを使うことで方法が読みやすくなる	112
避けるべきミス	109~111
査読者の反論にあらかじめ備える	101~104
サンプル数	112~113
文の構造	23~24
目的	101
レシピやストーリーの形にならないようにする	109~111
ホフスタッターの法則	206~207

ま

前向き分析	73
まとめ	
インフォームド・コンセント	278
ガイドラインや推奨事項を伝える	278
共同執筆	219
グラントに応募する方法	190
研究の枠組みを決める方法	58
効果的なライティングと3つのC	43
出版にこぎつける	139
大衆とのコミュニケーション	278
プレスリリースを書く	278
論文の投稿	139
明快さ	
文を読みやすいものにするために	21
明快さに関する原則	
虚辞の使用を避ける	26~27
受動構造ではなく能動構造を使う	22~23
動作動詞を使う	26
動作主または具体的なものを文法的主体にする	24
文法的主体に代名詞を単独で使うことは避ける	25
方法のセクションにおける文の構造	23~24
メール	
共同執筆者との間の	217

効果的な使い方	217~219
構造	218
内容がわかるようなタイトル	217
何度も交換してはいけない	218
メッセージを簡潔にする	217
メタアナリシス	73
結果のセクション	117
メディア・リレーションズ	
記者のように書く	249~259
研究成果をたくさんの人に届ける	238~242
なぜニュースになるのか	242~246
パラドックスの力を利用する	260~267
プレスリリースの構成と内容	270~278
良いプレスリリースの効果	246~249

メンター

キャリアにおける影響	59~63
共著者になるよう誘われる	60
査読者に推薦する	62~63
指導される側の執筆能力に関する思い込み	72
指導している研究者と共にグラント申請に取り組む	158~159
総説の共同執筆	60
ネットワークを広げてくれる	61~62
メンターの経歴や人脈から得られる利益	63
メンターを見つける	59

門番

論文投稿における影響力	133
-------------	-----

や

予測

読むという行為における役割	20~21
---------------	-------

読むという行為

retrospecting (読み返し)	19
記憶の役割	29~30
語彙認識の段階	20~27
構文認識の段階	20~27
個々の単語の認識	20~21
初頭効果	30
新近効果	30
推論構築の段階	27~42
読解における3つの段階	15, 16~19

読むという行為 (つづき)

袋小路文	20~21
文章を読んでいる時の脳に関する研究	16
文のつながり	27~29
文脈についての手がかりと枠組み	35~37
文を読みやすいものにする	21
予測の役割	18, 20~21
読み手が直面する試練	16~19
読むという行為における構文認識の段階	20~27
読むという行為における推論構築の段階	27~42
喜ばしくないこと	
伝え方	218

5

ライタズブロック	75
向き合い方	185

ライティング

書きはじめる前に考えておくこと	47~50
核となる知識が存在しない	15
期待される結果によって研究を分類する	50~57
交絡因子となりうる要因を排除する	48~50
ジャーナルに投稿する上で守るべきガイドラインを 考慮する	56
従来のアドバイス	15
成果のカテゴリーを利用して出版の確率を高める ('論文の投稿'も参照)	57~58
「だから何?」「誰が知りたい?」という問いに 答える	57~58
誰も学ぼうとしないスキル	9~10
必要な集中力	44~45
文章を読んでいる時の脳に関する研究	16
ランダム化比較試験	73
リジェクト	
原稿がリジェクトされた理由	119
査読者から反論される可能性を考慮する	47~50
試練や逆境に対する態度	186~188
レジリエンスと再投稿	140~142
量的研究	
研究のタイプ	73
類像性仮説	22
ライター	238

ロビン・ウォレン	54~55
----------	-------

論文の投稿

アブストラクト	134~137
イントロダクションのセクション	75~100
お金を払えば掲載してくれるジャーナルを避ける	268~270
カバーレターの重要性	133
成果のカテゴリーを利用して出版の確率を高める	57~58
結果のセクション	113~120
原稿がリジェクトされた理由	119
考察のセクション	120~134
コメントに返答する	191~194
査読者から反論される可能性を考慮する	47~50
査読者を選ぶ	137
質的研究のタイプ	73
ジャーナルに投稿する上で守るべきガイドラインを 考慮する	56
ジャーナルの規定に合わせて原稿を修正する	68
ジャーナルの指定する形式に沿って書く	65~67
出版の確率を高めてくれる画像	138
総説	73
「だから何?」「誰が知りたい?」という問いに 答える	57~58
投稿論文を念頭に置きながら研究デザインの枠組み を決める	72~74
ネガティブ・スタディ	69
筆頭著者になることの利点	220~222
文献管理ソフトの利用	68
文献や既存の知識についての事前調査	69~71
方法のセクション	101~113
見出しと小見出しを先に書く	75
門番を通過する	133
量的研究のタイプ	73
レジリエンスと再投稿	140~142
論文の執筆を志願する	220~222
論文のタイプに適した内容	73

わ

枠組み	35~37
-----	-------